

活動名	団体名	環境市民ネットまつなが
	地域	広島県福山市
	代表者	代表 国竹 卓美
	支援金額	25万円
活動概要		
昨年度、「甦れ 母なる海 松永湾」と題し、地球温暖化や環境汚染で破壊されつつある貴重な自然や生態系を守りたいという我々の小さな思いを、次の世代を担う子どもたちや、共に暮らす地域の人たちに理解して貰う活動を始めました。貴財団の助成のおかげで、その活動は一定の成果をみました。本年度は更に発展させ、「パート2 広げよう環境保護の輪」と題し、より多くの人たちの参加と理解を目指しました。 特に瀬戸内海の現状と、環境破壊がもたらす影響の学習や干潟の生物・土壌・水質を調査することからわかってくる我々のなすべきこと・できることをともに考える活動に重点を置きました。 ◆実施時期：平成20年4月13日・5月3日・8月24日 環境イベントの開催 松永湾沿岸一帯 ◆参加人数：1. 干潟の日イベントIN松永30名 2. ごみ拾いウォーク&野鳥ウォッチング20名 3. 生物調査・EM・稚貝放流163名 参加総人員 213名		



《水生生物の観察》



《ごみ拾いウォーク》



《水生生物調査風景》



《EM団子作成》

◆活動が関連する団体等、地域社会等に与えた影響

- ・現時点で他の団体がどのような活動をしているか、また始めたかは不明です。但し、次回開催打診等の反響があり、関心は確実に広がっていると確信しています。
- ・アサリ養殖をおこなっている地域より、環境講演会の要請があり環境保護の姿勢が漁業者の間に広がっています。次年度の活動に反映させたいと思っています。

◆苦労した点

我々の活動で最もネックとなるのは、活動資金です。しかし昨年度より貴財団の助成を受け、様々な活動が展開できることとなり、大変感謝しております。

PRに関しては、今まで活動への参加要請は我々の口コミが主体でしたが、これには限度があり、活動の内容が十分理解してもらえない面がありました。冊子「昼休み掃除隊の記録」「あさりの棲める干潟をめざして」を作成したことで、より理解を得ることができるようになりました。

会員の多くはそれぞれ職業を持っており、参加する機会に限度があり、また多数の参加者を予定しイベント日程を決めますが、地域、学校等の諸行事と重なることがあり、開催日の選定に苦慮しております。同時に天候や潮汐の干満に左右されるため、目指す行事に制約を受けることがあります。

年間を通じて行っている清掃作業(昼休み掃除隊)への理解が徐々 to 増してきたことはうれしいことであり、より多くの人捨ててる手から拾う手に、そして捨てない手にと変わってくることを願っています。

◆今後の課題・発展の方向性

我々の活動のフィールドとしている尾道市浦崎町の戸崎地区は、本年度国の助成でアサリ養殖のための人工干潟を造成しました。この地域はかつてはあさりの一大産地で、あさは家計の助けや食卓に彩りを添えていましたが、高度経済成長時代より以降、漁獲量は激減しました。この造成地は地域の漁業組合員に割り当てられ、今後あさりの漁場として活用されます。我々はこの場所を利用し、地域の人たちとともに、我々の目指している「あさりの棲める干潟をめざして」海の環境(水質・土壌・潮流・生態系等)の調査を行い、活動に賛同・参加してくれる人たちが増えることで、環境改善の一助になることを目指しています。

◆活動を終えての感想・意見等

毎回イベント開催の度に、天候や参加者の人数、賛同が得られるかなど、不安だらけですが、参加者の感想を聞くと勇気づけられ、新たな意欲がわいてきます。

過去2年の活動はこれで完結するわけではありません。これから先、辛抱強く一人でも多くの賛同者が出てくれることを願いながら、続けていくことが肝要と思っております。